

G1ジャパンカップ2023 全頭診断

G2勝ちすら無いようなレベルが低すぎる馬のエントリーが多く、
そういう馬の評価は簡潔に血統評価のみ診断致します。

血統評価が高くても、能力が足りなすぎる馬の激走は
今年のようなレベルの高いメンバーでは期待薄だと思しますので
評価につられて多額の投資をなさらぬようご注意くださいませ(*_*)

1番リバティア일랜드(3歳牝)

父:ドゥラメンテ(欧キングマンボ系)

父母父:サンデーサイレンス

母父:豪ロベルト系

祖母父:欧ミスプロ系

・血統評価:A

欧州型ミスプロ系に相性が良いレースで、

ディーピンパクト産駒が居ない今年はベストな血統。

牝系は短距離牝系で、スプリンターズSと、高松宮で3度2着に走った

ビコーペガサスの他、マイルチャンピオンS3着馬シンボリグラン、

母ヤンキーローズ(豪州の1400mG1と2000mG1の勝ち馬)

などが出ております。

古馬になれば距離適性が2000m以下に

シフトする可能性もありそうですが、

3歳の今なら距離の心配はないでしょう。

むしろ3歳馬だからこそ、母系からスピード強化を

受けている事はプラス材料であろうと考えます。

・総合評価:A

3冠牝馬が3歳でジャパンカップに出た場合、

全て馬券に絡んでおり、本馬の場合はオークスの

パフォーマンスから考えても勝ち負けが濃厚でしょう。

2番イクイノックス(4歳)

父:キタサンブラック(Tサンデー系)

父母父:サクラバクシンオー(プリンスリーG系)

母父:キングヘイロー(欧リファール系)

祖母父:トニービン(欧グレイソヴリン系)

・血統評価:A

古馬の場合は欧州指向の血統、
特にトニービンは有効な血統になります。

・総合評価:S

特に書く事はありません。

少しだけ気がかりな事は、休み明けをレコード勝ちした後の
中3週ローテで、反動がどの程度のものとなるのか？

自身最短のローテである事と併せて、若干の不安材料ではあります。

しかしそれも、調教後の馬体重がプラス5キロと増えており
杞憂に終わる可能性の方が高そうだと感じております。

3番タイトルホルダー(5歳)

父:ドウラメンテ(欧キングマンボ系)

父母父:サンデーサイレンス

母父:モチベーター(欧サドラーズ系)

祖母父:ミルリーフ系(ネヴァーヴェンド系)

・血統評価:B

レース相性の良いキングマンボ系であり、
ドウラメンテはトニービン持ちでもあります。

ただ、母系の配合が凱旋門賞血統同士の配合で、
スタミナに寄り過ぎている印象を受けます。

・総合評価:注

実績のイメージからは消しても良さそうですが、
今年先行常習馬が本馬とパンサラッサくらいのもので、
この2頭が得意な「後続の末脚を削るペース」で二人旅に持ち込めれば
2009年のエリザベス女王杯のような行った行った馬券も。

4番スタッドリー(5歳)

父ハービンジャー(欧デインヒル系)

父母父:欧ネイティヴダンサー系

母父:フジキセキ(Pサンデー系)

祖母父:トニービン(欧グレイソヴリン系)

従兄弟にイクイノックス

血統評価:C

父か母父にデインヒル系を持つ馬も

母父にPサンデー系を持つ馬もJCでは好走なし。

イクイノックスと血縁がある点と、トニービン持ちの古馬
と言う点を最大評価してC評価とします。

5番ドウデュース(4歳)

父:ハーツクライ(Tサンデー系)

父母父:トニービン(欧グレイソヴリン系)

母父:ヴィンディケーション(米ポールドルラー系)

祖母父:ゴーンウエスト(米ミスプロ系)

・血統評価:A

JCでは古馬の場合、欧州指向の配合が理想ですが、
ハーツクライ産駒の場合は米国型との配合がベターです。

また、ハーツクライ産駒は天皇賞秋で惨敗しても
JCで巻き返してくる「距離延長が本領」と言うタイプが多く、
天皇賞秋で凡走したハーツ産駒は軽視禁物です。

・総合評価：B

鞍上が主戦の武豊JならA評価としましたが・・・
代打の戸崎Jは調教にも乗っていなかったようで、
この馬の気性から、1戦乗っただけで操れるタイプでは
なさそうに思えますのでB評価としました。

ちまたでは、体型がマッチョ化していて
母系が短距離牝系でもあることから、
距離延長に疑問を持つ声も多いようですが・・・
JC2着のジャスタウェイも母系は短距離牝系でした。

また、ダービー2着のスワーブリチャードは
天皇賞秋10着から巻き返して3着に好走。
2度目のJCでも天皇賞秋7着から巻き返して優勝。

ドウデュースの前走は、明らかにテン乗りの戸崎Jへの
反抗心から、精神面でレースできる状態ではなかった事が
凡走の最大の原因だったと感じております。

距離適性の短距離シフトが原因であったなら、
むしろ2000mで勝ち負け出来ていたはずでしょう。

ドウデュースが戸崎Jを受け入れれば、
ダービーの再現でイクイノックスに先着する可能性も
十分有ると考えております。

6番フォワードアゲン(6歳セン馬)

父：ローズキングダム(欧キングマンボ系)

父母父：サンデーサイレンス

母父：グラスワンダー(欧ロベルト系)

祖母父：欧ターントウ系

・血統評価:C

7番イレジン(6歳セン馬・仏国)

父:マンデュロ(欧ブランドフォード系)

父母父:欧ノーザンダンサー系

母父:オアシスドリーム(欧ダンチヒ系)

祖母父:ウッドマン(米ミスプロ系)

・血統評価:C

父はフランスのマイラー。

母父は英国のスプリンター。

欧州馬としてはスピード型の配合馬ですが、
東京の2400mにマッチするかと聞かれれば
答えはNO。

自国のG2フォワ賞で、日本馬のディープポンドに
3馬身差を付けられている事からも、日本でディープポンドに
先着できる可能性は極めて低いと考えます。

8番パンサラッサ(6歳)

父:ロードカナロア(欧キングマンボ系)

父母父:米ストームキャット

母父:モンジュー(欧サドラーズ系)

祖母父:欧ミルリーフ系(ネヴァーヴェンド系)

半兄エタンダールは青葉賞2着馬。

・血統評価:注

タイトルホルダーとよく似た配合ですが、
母系の凱旋門賞血統同士の配合を考えると、
父がロードカナロアである事は、スピードの要求度が高い
東京コースには向いていると考えられます。

・総合評価:特注

昨年天皇賞秋では、東京の2000mは長すぎる
と言われながらもイクイノックスと0秒1差の2着。

2400mはさすがに長いかも知れませんが、
得意の前傾ラップに持ち込めば、馬場の負荷が軽く
坂が緩やかな東京なら、阪神2200mや中山2500mより
息がもつ可能性は、はるかに高いのではないかと思います。

世界記録でJCを制したアーモンドアイが
有馬記念でまさかの大凡走をした事は、
中山2500mで求められるスタミナと
東京2400mで求められるスタミナには雲泥の差が
ある事の証明と言えるのではないのでしょうか。

9番ヴェラアズール(6歳)

父:エイシンフラッシュ(欧キングマンボ系)

父母父:プラティニ(独ハンプトン系)

母父:クロフネ(米ヴァイスリージェント系)

祖母父:サンデーサイレンス

血統評価:B

ドイツ牝系出身の父はダービー馬。

ハンプトン系は、直線が長いコースの加速力を
強化する役割を果たす血で、昨年のJCでは
3着馬ヴェルトライゼンテも母父にハンプトン系を
持っていました。

また、母系に入ったクロフネの血は
高速決着に対する適性を強化する血であり、
東京コースや京都の外回りコースなどの
時計が出やすいコースにおいて爆発的な
トップスピードを与える血でもあります。

・総合評価:C

本馬は典型的なスローペースの瞬発戦タイプで、
昨年のJCも前半1000m通過が61秒1、
後半1000mが58秒0のスローペース瞬発戦でした。

今年は前傾ラップが本領の逃げ・先行馬2頭が揃い、
スローペースは望みにくいでしょうし、前のペースを無視して、
大逃げを許せば、後方からでは物理的に届かない可能性も。

また、昨年騎乗したムーアJが落馬負傷により
短期免許取り消しとなり、女性騎手のドイルJに
騎手が変わる事も非常に大きな痛手。

全く人気が無いので、期待したいところですが、
今年は押し材料に乏しい印象です。

10番ダノンベルーガ(4歳)

父:ハーツクライ(Tサンデー系)

父母父:トニービン(欧グレイソヴリン系)

母父:ティズウェイ(米インリアリティ系)

祖母父:米APインディ系

・血統評価:A

JCでは古馬の場合、欧州指向の配合が理想ですが、
ハーツクライ産駒の場合は米国型との配合がベターです。

また、ハーツクライ産駒は天皇賞秋で惨敗しても
JCで巻き返してくる「距離延長が本領」と言うタイプが多く、
天皇賞秋で凡走したハーツ産駒は軽視禁物です。

・総合評価:B

ナイスネイチャのような善戦マンですが・・・
ドバイターフでは、モレイラJにしては珍しく
直線で進路を無くすロスの大きい競馬で小差の2着。
能力的にはココでも十分通用するレベルと言えます。

JCのハーツクライ産駒は、古馬になってから買うのがセオリーで、今年ダメでも来年出走してくれば、勝ち負けとなる可能性が非常に高いものと考えております。

鞍上のモレイラJが、騎手人生最後のJCで手綱を取る事にも大きな意味があるのではないかと言う気がします。

11番トラストケンシン(8歳)

父:ハーツクライ(Tサンデー系)

父母父:トニービン(欧グレイソヴリン系)

母父:エルコンドルパサー(欧キングマンボ系)

祖母父:欧プリンスリーギフト系

・血統評価:A

ハーツクライとキングマンボと言う

JCの2大血統同士の配合馬。

つつい買いたくなりますが...

12番チェスナットコート(9歳)

父:ハーツクライ(Tサンデー系)

父母父:トニービン(欧グレイソヴリン系)

母父:クロフネ(米ヴァイスリージェント系)

祖母父:ミスワキ(欧ミスプロ系)

・血統評価:A

ハーツクライに母父米国型。

そして祖母父が欧州型ミスプロ系。

馬柱表を見なければ買ってしまいそうな配合です。

13番クリノメガミエース(4歳牝)

父:エスポワールシチー(Dサンデー系)

父母父:ブライアンズタイム(欧ロベルト系)
母父:フレンチデピュティ(米ヴァイスリージェント系)
祖母父:米フォーティナイナー系

・血統評価:E

これが来たら競馬辞めます。

14番ディーブポンド(6歳)

父:キズナ(ディーブ系)
父母父:米ストームキャット
母父:キングヘイロー(欧リファール系)
祖母父:米レイズアネイティヴ系

・血統評価:C

キズナ産駒の東京2400m重賞成績は
【0・0・2・12/14】
馬券に絡んだ2頭は母父米国型の3歳馬でした。

・総合評価:C

年齢を重ねるごとにズブさに磨きが掛かり、
流れが速くなりそうな2400m戦では追走に手一杯になりそう。
決して末脚が切れるタイプではなく、前目に付けて
持続力を活かす競馬が本領の本馬には厳しいレースと
なりそうな予感がします。

ただ、G1で4度の2着と言う実績を考えると
スタートさえポンッと出れば、粘り込む可能性も
無視出来ません。

15番ショウナンバシット(3歳)

父:シルバーステート(ディーブ系)
父母父:シルヴァーホーク(欧ロベルト系)
母父:メダリアドーロ(米サドラーズ系)

祖母父:米ヴァイスリージェント系

血統評価:D

シルバーステート産駒は当コース重賞に
5頭が出走して全て2桁着順。

16番インプレス(4歳)

父:キズナ(ディープ系)

父母父:米ストームキャット

母父:ドクターフォン(欧ロベルト系)

祖母父:欧ニジンスキー系

血統評価:D

17番スターズオンアース(4歳牝)

父:ドウラメンテ(欧キングマンボ系)

父母父:サンデーサイレンス

母父:米ミスプロ系

祖母父:モンズン(独ブランドフォード系)

・血統評価:A

祖母スタセリタは仏・米のG1を6勝した名牝。

父方にトニービンを持ち、

祖母の父がドイツ血統のモンズン。

古馬として、重すぎず軽すぎず、

バランスの良い配合で欧州血統を保持しています。

・総合評価:B

休み明けの馬が不振なレースで、

叩きを使えなかった理由が脚部不安。

そして、JCで不利になる外枠。

主戦のルメールから、ビュイックJへの乗り替り。

割り引き材料が多いものの、
デビュー以来一度も馬券圏外がない実力馬で、
2000m以上のG1では全て上り最速の末脚を
繰り出している「アテに出来る」タイプです。

18番ウインエアフォルク(6歳)

父:ゴールドシップ(ステイゴールド系)

父母父:メジロマックイーン

母父:欧カロ系

祖母父:欧ノーザンダンサー系

血統評価:C

父がステイゴールド系の場合、

母父には中長距離血統が理想ですが、

本馬の母父は短距離戦に強いコジーンの系統。